

土地家屋調査士 口述模試 受験上の注意

口述試験は、試験科目の知識を問うと同時に、人間性を問われる試験でもあります。常識的な言動が要求されますので、そうした点を意識して受験してください。

以下、実際の口述試験（試験時間約15分）での注意事項と、アドバイスです。

本日の口述模擬試験とは異なる点がありますがご了承ください。

■服裝：

男性はスーツ、女性はツーピース程度のものを着ていくことが望ましい。

■試験の流れ

一 入室

- ・待機室から試験室まで試験監督員が案内してくれる。人数の多い試験会場の場合、一度に相当数の受験者が移動することになるので、待機室を出る際、試験監督員の誘導に遅れないこと。
- ・試験室前には待合用の椅子が置かれており、椅子に腰かけ自分の試験の順番まで待機する。
- ・試験監督員が試験室内の試験官に確認のうえ、「では、どうぞ。」と入室を促してくれるので、必ずノックをして試験室内からの「どうぞ。」との声を待って中に入る（ただし、試験官が試験室側からドアを開けて入室を促すこともあるようである（年度や会場により一律ではないようであるが。この場合にはドアのノック無しで入室し、下記のように「失礼します。」と一礼するのが一般常識的な振舞いであろう）。
- ・ドアを開けて中に入り、「失礼します。」といって一礼すること。この瞬間から、既に試験は始まっている。
- ・「どうぞ座ってください。」と言われたら、ドアから1～2m先のところにある椅子に、「よろしくお願いします。」と言って座ること（着席の前に、荷物（鞄）や上着はドア付近に用意された机の上に置くよう促されると思われる）。

※ 感染症対策として、検温や消毒を求められる可能性があります。その際は試験監督員の指示に従ってください。

二 着席

- ・椅子に座るときは、やや浅目に腰掛けるとよい。
- ・試験を受けるという謙虚な気持ちで座ること。
- ・座って一呼吸置いたところで、いよいよ質問が始まる。

三 応答

試験官は、受験者1名に対して2名となっている。(※本日の口述模試では、試験官は1名です。)

質問は、不動産登記法関連からと土地家屋調査士法関連からなされ、1名の試験官が全ての質問を担当する場合と、2名の試験官が途中で交代して質問をする場合とがあり、試験の年度や会場ごとに異なるようである。いずれの場合であっても、質問を発した試験官の方を向いて回答することが望ましい。その際、質問を発していない方の試験官は、受験者の回答について採点をしているが、そちらには気を取られず、あくまでも質問者である試験官に対して応答するという前提で接すること。

また、不動産登記法関連の質問と土地家屋調査士法関連の質問がなされる順序も、年度ごと・会場ごとに相違することがある模様である。必ずしも不動産登記法関連の質問から始まるわけではないことを念頭に置いていただきたい。

- まず、口述試験の受験番号と氏名、生年月日等、受験者本人であることを確認する事項を聞かれる。当然のことながら、願書に記載したものと一致していなければならない。
- 事例問題の場合は、状況設定を完全に把握してから答え始めるべきである。中途半端な理解のまま回答し始めると、矛盾点をつかれて窮することになりかねない。
- 聞き落としの場合は、聞き取れなかった旨を素直に述べ、もう一度言ってもらうこと。その際、原則として、最初と同じ文言で質問が繰り返されることになるが、与えられる情報はそれだけであるので、その限られた情報の中から答えを出さなければならない。
- 試験官の質問を聞き終わったら、一呼吸置いてから答えること。また、答える必要があるのは、あくまでも質問についてのみであり、補足説明的になってしまふところは要求されない限り答えるべきではない。

四 終了・退室

- 試験官が「以上で、試験は終わります。」と宣言したら、一応は終了となる。

1人あたりの持ち時間が残っていた場合には、受験歴や今後の予定などを聞かれることもあり得る。世間話的な内容になったとしても試験の一部であるとの認識を持ち、試験官に対する受験者として接すること。

- 試験監督員が次の受験者を引率してくると、その旨の合図があり、「はい、結構です。」と言われて退出することになる。
- その際、立ち上がって一礼のうえ試験官に礼を述べ、ドアを閉めるときにも、もう一度礼を述べて退室するのが一般常識的な振舞いであろう。

以上で、口述試験のすべてが終了する。

その後、試験監督員に引率されて、試験会場の外に出ることになる。最初にいた待機室には、絶対に戻れないもので注意すること。